

～明日から活かせる～ ノーリフティングケア・セミナー

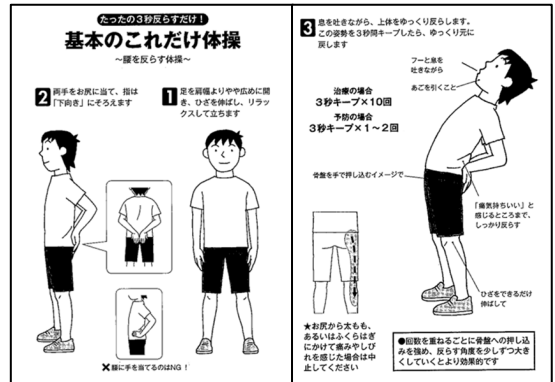
8月30日（土）、ラポール京都2階大ホールにて、「ノーリフティングケア・セミナー」が開催され27人が参加しました。昨年に続き2回目となる今回のセミナーは、①ノーリフティングケアの理念を知り、②提供する側・受ける側双方にとって安心できるケアを学び、③職場での普及を目的としました。講師には、長野県JA佐久総合病院の理学療法士・テクノエイド室長を務め、現在は労働組合専従として活躍されている花澤直樹さんを迎え、「『介助のコツ』～要介助者の身体能力を伸ばそう 介助者の身体を守ろう～」をテーマに講義と実践が行われました。

講習では、「できる動作」と「している動作」、「補う介助」と「誘導する介助」、「言葉がけ」と「スキンシップ」の違いを対比させ具体的に解説。花澤さんは、5年間ボディーメカニクスを学んで身につけたとしても、リフトを導入すれば数日で習得できることを紹介し、「どちらがより有効なのか」を問いかけました。また、病棟でのリフト活用により、寝たきりの患者さんが窓際の移動して「桜を見る」ことができるなど生きる喜びを実感できる事例を紹介。それに加え実際、現場導入にあたっての苦労（反対する看護師をどのように説得したか等）なども紹介されました。



実践では、参加者がグループに分かれて、身体を動かしながら、楽しく、あーでも、こーでもない体験。感想交流では、「スライディングシートやボードはあるが使用していない」「利用者の自立を阻害していなかったか振り返ることができた」「施設では認識のバラつきがある」「力づくでの介助は危険だと実感した」など現場での課題、「明日からシートやボードを使いたい」と明日から活かせることが語られ、他事業所の実態を交流することもできました。

今回のセミナーを通じて、介助する側・される側双方にとって安全で安心できるノーリフティングケアの重要性を学ぶとともに、職場での普及へつなげる貴重な場となりました。



★花澤さんおすすめ腰痛体操★

